

# Jyosho

BUKKYO  
UNIVERSITY  
LIBRARY  
INFORMATION  
BULLETIN



佛教大学図書館

### 平成12年度 図書館委員会委員

小野田俊蔵(仏教学科)  
斎藤英喜(仏教学科)  
佐藤健(仏教学科)  
田中文英(史学科)  
宮澤知之(史学科)  
上野辰義(国文学科)  
荒木猛(中国文学科)  
萱嶋八郎(英文学科)  
後藤直(教育学科)  
宮脇陽三(生涯学習学科)  
岡本重慶(臨床心理学科)  
君塚大(社会学科)  
高橋伸一(応用社会学科)  
永和良之助(社会福祉学科)  
岡村正幸(健康福祉学科)  
藤井透(総合研究所)  
山田泰嗣(図書館長)  
服部良誉(担当部長)  
大橋憲宏(運用課長)  
川崎秀子(管理課長)

印 委員長 副委員長

# 常照

常照 — 佛教大学図書館報

平成12年10月1日 発行

編集・発行 佛教大学図書館

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

TEL 075(491)2141

FAX 075(493)9042

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib>

# Jyosho

48  
AUTUMN  
2000

BUKKYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib>



ISSN 0388-670

# 常照

佛教大学図書館報

## CONTENTS

基本図書	2
海外の図書館	6
私の図書館利用	8
CD-ROMによる 検索をされる方へ	12
図書館の主なサービス および施設・設備	14
平成11年度諸統計	16
サイト紹介	18
開館時間表	19

第十一巻 枯葉尊者 揮毫 於百子有所 惜  
然則不喜雙日如剝蟬子流火 暗空電閃心者能忘  
積及即安本无傷感如日在中

佛教大学図書館蔵品紹介

後

記

今号よりスタイルを親しみやすいものに一新した。理由は、図書館報の目的である図書館と利用者のパイプ役を意識したからである。従来から継続している基本図書には、新設の臨床心理学科の岡本先生、健康福祉学科の岡村先生をお願いした。海外の図書館は、長期研修で北米の図書館を活用された山口先生をお願いした。利用者の声として、手始めに院生の辛口の提言を掲載した。図書館の記事として図書館のサービス内容の紹介、利用者の声、図書館の活動状況を示す諸統計などを柱として掲載している。

### 健康福祉問題への招待

岡村正幸

健康福祉という領域が認識や方法等において十分に成熟しているかについては議論のあるところですが、少なくとも1980年代後半以後、比較的新しく、しかも激しく変動する「社会問題としての生活困難」とその介入方法に関わる社会福祉領域への学際的注目から出発していることは間違いないところだ。それらがいわゆる生活不安の形成として子育て・健康・雇用・老後といった領域に関わって新しい様相を見せ始めているという共通の認識のもと、その領域設定における固有性の特定において既存の政策・実践方法では扱いきれない内容を含んでいるといった時代認識を基礎とします。それは現代社会のマクロ的变化と様々な領域における多様なミクロ的变化を統合的に捉えつつ、急速に地球化・地域化する社会の運営について、「まち」を舞台に統合的に政策デザインするためのシステム形成とその方法に関わっていると考えられます。そうした思考の道筋をたどりながら幾つかの図書の紹介をしたいと考えます。

まず、転換期としての1990年代を近代社会成立後の120年の中で、いかに位置づけるのかという点に関わっていわゆるパラダイム論としての社会福祉学の解き明かしとして内外から選ぶとすれば以下3点をあげておきたいと思えます。もちろんこの間、学会や大学・研究グループ、さらに出版社などを中心にパラダイム論を取り上げ意見表明することが盛んです。それぞれに立場と主張をもって、批判的読書を通して参考にする必要があると考えられます。

その一つは全容の検討としてまだ刊行途中ですが、わが国での社会福祉研究者団体として日本社会福祉学会による総合的な研究報告でもある講座『戦

後社会福祉の総括と21世紀への展望』(全4巻 一番が瀬康子他編 ドメス出版)です。刊行意図にもあるように、現代における社会福祉思想・政策・実践の歴史的整理と検討をそれぞれの領域での到達点を踏まえながら一線の研究者の参加によって解き明かそうという意図があり、全容を見るには手頃と考えられます。いまひとつは、そうした試みが総花的になりかねないことに比してより立場を鮮明に一定の方向から現代を読み解くことを意図した『21世紀のパラダイム(理論と政策)・II(方法と技術)』(古川孝順編 誠信書房)です。これは現代の危機回避としての政策モデル提案でもある基礎構造改革が、必ずしも危機としての現代社会理解と処方にも有効な手段を提供していないのではないかとした立場を堅持しつつより批判的かつ具体的な検討、提案を行っています。今一つは、現代のパラダイム認識を歴史的な長寿社会の形成とその運営モデルの転換という立場から内外の研究者の参加による研究報告とパネルディスカッションによって構成される『人間福祉の発展をめざして』(西三郎編 勁草書房)です。人間福祉といった新しい理論フレームを前提にその国際的動向を踏まえた「デザインされる福祉」という検討方法は健康福祉論にとっても多くの示唆を含むものと言えるでしょう。

次にこうした大状況(ミクロ)への発言を踏まえて、幾つかの分野での先端論議を取り上げておきたいと思えます。

まず第一は、健康福祉の基礎となる健康問題と地域活動といった領域です。この点では『健康づくりと支援環境 健康日本への視点』(松田亮三他 法律文化社)があげられます。ここでは自治体保健行政の戦後史から21世紀を展望するという視座から、歴史を整理しつつ健康政策に自治体がどのように関わり合ってきたのか、現



代の健康危機を見据えながら保健専門職の力量形成に踏み込んでの広範な検討と具体的提言が展開されています。この点では同様に『障害者の健康と医療保障』(高谷・武内・植田編 法律文化社)なども障害者領域を検討の基盤としますが医療と福祉の統合的理解として注目される成果と考えられます。次に、高齢者領域については、社会福祉の方法論の再検討を前提とした『高齢者を介護する家族 エンパワメント・アプローチの展開にむけて』(和気純子 川島書店)をあげておきます。そこでは固有の領域と方法をもつ今日の社会福祉の仕事の続きでもあるソーシャルワーク理論の新しい展開を援助関係論を中心に当事者論をどのように取り込み理論化していくのか、特に90年代に急速に進む「対処する当事者」として社会福祉システムが直面する課題を、ストレス 対処モデルを分析の枠組みとした広範な調査とアメリカにおける最近の理論研究の紹介・検討を通して臨臨床的に展開がなされています。健康福祉の方法として注目される成果と考えられます。次に障害者領域に関わっては次の2点を上げておきたいと思えます。その一つはアメリカにおける障害者問題の歴史展開を踏まえながら専門職と当事者・家族の共同における自立生活支援の新しい形を模索したものとして『障害者・家族・専門家の共働』(ジョン・W・オブライエン 小松隆二他共編 慶応義塾大学出版会)です。福祉支援システムが障害者にどのように提供されるのか雇用問題とアメリカ法制度の葛藤をリアリティをもって展開していますので、有用なアメリカ社会の理解とともにADA(障害者もつアメリカ人法)といった介入システムの成果を読み解くには必須のものひとつと考えられます。さらに福祉や健康領域にとって近年の政策構造の主要な内容であるコミュニティケアを歴史的な文脈で整理するためには「脱施設化」概念の慎重な整理が必要になりますが、この点では広範な資料と構造的整理として『脱施設化と地域生活』(ジム・マンセル他 中園康夫他監訳

相川書房)をあげておきます。施設主義から居宅主義への転換とその政策化といったことが国際比較研究の90年代における主要な論争点のひとつになりますが、アメリカ、イギリス、北欧における脱施設化の現状と展望を障害者領域における政策モデル実施や結果として当事者・家族・地域における影響を調査を用いながら比較研究し施設の閉鎖がもつ意味と地域の可能性を明らかにしています。

現在、溢れるような出版状況が続いています。マニュアル・解説本が多い中にも歴史の転換期にたつて読み解くべき本もまた多いと思われれます。最後に幾つか付け加えておきます。全書としては『これからの社会福祉』(全10巻 古川孝順他編 有斐閣)や『世界の社会福祉』(全12巻 仲村優一他編 旬報社)さらに現代における「生きる場所」論議として『ホームレス/現代社会/福祉国家』(岩田正美 明石書店)また『医療ソーシャルワークの挑戦』(ジョアン・バラクロー他 中村永司他監訳 中央法規)さらに現代のマネジメント論議としては『地域ケアにおけるケースマネジメント』(Dチャリス他 窪田暁子他訳 光生館)。障害者問題と地域開発については『クローさんの愉快的な苦勞話』(エーバルド・クロー ぶどう社)や『自立生活の思想と展望』(定藤文弘他編 ミネルヴァ書房)『ソーシャルロールパロリゼーション入門』(ヴォルフエンズベルガー 学苑社)『アジアの障害者』(中西由起子 現代書館)また歴史研究の成果として『ナチスドイツと障害者』(安楽死計画)『ヒュー・G・ギャラフィー 現代書館)精神保健問題については『インテグレイテッド・メンタルヘルスケア』(イアンR、H、ファーレン他水野雅文他訳 中央法規出版)『精神の障害 臨床、法制度、その実際』(日本精神神経学会監訳 三輪書店)『コミュニティケアを越えて』(S・ラモン 雄山閣)などをあげておきたいと思えます。

いずれにしても、生活とその困難を読み解き、介入する新しいシステムと方法が「まち」を舞台に求められている時代です。

(おかむら まさゆき 健康福祉学科 社会学部教授)

### 森田療法を 「読む」ために

岡本重慶

「読む」と言えば、まず本を読むこと、つまり読書を連想するのがふつうである。実際、読書は重要な知的作業である。けれども、「読む」ということは、通常考えられる以上に複雑な心理的作業であり、読書という言葉への置き換えだけで理解を尽くせるような平板なものではない。本稿では、わが国の代表的な心理療法である森田療法についての基本図書の案内をしたいと思うが、それに先だってまず「読む」という心理的作業について、若干の解説を試みることにする。

「読む」こと、あるいは「読み」という知的作業の進行は、およそ三つのプロセスに分けて考えるとわかりやすいであろう。まず最初は、書かれてある対象を客観的に正確に「読み解く」こと、すなわち読解の作業である。この段階では、難易を問わず対象は書き「もの」であると同時に読み「もの」である。そのような客観的な「もの」としての対象が、学術的に難解であればあるほど、読み手はその知的読解力を駆使して、書かれている内容を細大洩らさず正確に綿密に読み取らねばならない。この段階で読み手に求められるのは、狭義の読む力、あるいは理解力である。この力が欠けていると、読み違いや読みの不足が起るために、読みそのものが成り立たない。

二つ目のプロセスは、書きものの内容のさらに背後にいる「書き手」にまで深く焦点を当てて、書く心境をも読み、書いた人間の心理ごと書きものの解説をはかることである。ちなみに医学的な診療において、レントゲン写真の判定をすることを「読影」と言い、写真に映った光と影から、表面には見えない深部の情報を最大限に読み取るのである。このような写真の読影にも似て、書き手の心理の

深層までも読むことで、はじめて著作への理解が深まることもあるものである。ただし、このような深読みをあえてするにあたっては、「読み手」の主観的解釈が入りこむ余地もある。それを承知した上で、深く読んでみるところに、多少のリスクとまた読む醍醐味とがある。もともと精神分析においては、言葉を重要な手がかりとするが、書きものを構成している数多くの言葉は、精神分析の豊富な材料にほかならないと言える。

このようにして読みを深めると、三番目に生起するのは「読み手」自身の内面における心理的变化である。対象(作者の人格性を帯びた作品)を読解して読みこなし、ときには容赦なく読み砕いてしまふ心理的過程において、読み手の中では、共感や共鳴や感動が湧き、驚きをおぼえ、またときには疑問や批判の念が生じてやまないものである。読む作業から起ったこのような複合的な心理体験によって、読み手は新たな認識を獲得したり、あるいは別の異なる認識に到達する契機を与えられたりする。いずれにせよ、読むことによって自己変革がもたらされる。この第三の段階が、読者のもっとも高次の到達点である。さて、ここまで前置きを長く書いたのは、心理療法(あるいはカウンセリング)を、本や理論を通じて勉強することの、大切さと難しさを指摘する必要があったからである。心理療法に従事するためには、人間的資質の上に経験を積み重ねるといった実践的修得の側面が、一方では必要である。しかしそれだけでは姑息な療法におちいりかねない。そこで理論を摂取してそれを生かす知的裏づけの側面も求められる。心理療法を「読む」必要性があるのは、もちろん後者の側面においてである。



心理療法にもさまざまなものがあるが、ここでは、森田療法を「読む」ために役立ついくつかの基本的な図書を紹介しておく。森田療法は、わが国の森田正馬によって編み出されたもので、自然を本位とし、あるがままに生きることを教える素朴ではあるが、奥の深い療法である。この療法に直に触れるという意味で基本的にお薦めしたいのは、森田自身の著作である『森田正馬全集』全七巻(白揚社)。かなり龐大なものなので、一気に読めないが、彼自身の声が伝わってきて、読むほどにその人となりやが彷彿とする。原典を繙き、人間森田に触れることなくして、森田療法に迫ることは難しいのである。しかしながら、いきなり全集と取り組むことにとまどいをおぼえる人も少なくないであろう。そのような配慮から、森田の原典の中のエッセンスとも言うべき重要な箇所を、原文のままに抜粋して編集した本が、出版されている(『現代に生きる森田正馬のことば』および『白揚社』)。断片的な文章が並んでいるきらいはあるけれども、森田自身の言葉を読んで、人間森田の片鱗に触れることができるという意味で、格好の入門書である。

次に森田療法を継承する人たちによって著わされたユニークな良書を少し挙げておく。岩井寛著『森田療法』(講談社現代新書)は、平易に書き砕かれた小著であるし、しかもネオモリタと呼ばれる新しい流れを汲むものなので、原典に忠実な入門書とは言い難い。しかし、本著誕生の蔭には、壮絶なエピソードがある。これは執筆中に全身を癌に冒されて失明した著者が、最後は病床で口述によって完成した珠玉の絶筆である。森田の生き方を最後まで貫いた人間岩井を紙背に感じて、読む者は胸を打たれる。

ところで京都には、三聖病院という伝統ある森田療法の専門病院があるが、この病院の院長の著作(宇佐晋一著)として、『あるがままの世界』、『続あるがままの世界』(以上いずれも東方出版)、『とらわれからの解脱』(柏樹社)がある。いずれも仏教と森田療法の接点を追求する立場を貫くもので、長い年月を通じて淡々と語られた講話が多く掲載されている。これらを読むと、読むことで森田療法の叡知を修得する難しさを思い知らされる。叡知を読み取る自己変革と、読み取った叡知を捨てる自己変革を同時に体験することによって森田療法的な一歩を踏み出すことができるのかもしれない。

以上に紹介した森田療法のどの著作をとっても、「読む」ことは決して容易ではない。「読む」ことによる森田療法にどこまで迫りうるかは、重要で興味ある課題でもあるのである。

(おかもと しげよし 臨床心理学科 教育学部教授)

## ● 海 ● 外 ● の ● 図 ● 書 ● 館

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib>

### LA大学図書館みてあるき "あつかましさ"の社会学

山口 信治

深まりには必ず2人がいる  
ひとり、かたる人  
ひとり、きく人

(D・ソロ)

大学の研究と教育にとって図書館の位置づけは、からだにたとえればさしずめ心臓にあたるだろう。もちろん研究と教育系のシステムの中枢機関という意味でもある。むろん「あの人は心臓が強い」という場合、その意味は「あつかましいこと」を合わせもっていることに、文字あそびに面白さを加える。

一般に図書館みてあるきの類は、どこそこの図書館はこんなところ、あんなところ、といってみれば受けた文化ショックをつづるそんな形式になる。読後感は多少虚しい。いうまでもなくわが大学のそれと比べて優劣を感じるからであろうか。

そこで今回のボクのみてあるきは、心臓の亜義「あつかましさ」をふまえての図書館の利用について書いてみることにしよう。

まずあつかましい利用法の第一は、早朝(7時)と深夜(12時)の閉館寸前の押し込みである。

早老の小生にとってこの時間帯はすこしも苦にならない。とは申せ、この時間に先を越す者がいる。若い研究者とランナーたちである、ここでちょっと耳慣れないランナーについて説明しておこう。かれらは俗にいう「本の運び屋さん」である。正式な呼び名があったかどうか定かでないが、ボクのふるい記憶(英国留学時)では「ライブラリー・ボーイ」と呼ばれた研究助手である。つまり先生方の研究

や教育をサポートする強力な助っ人である。研究に必要な論文はもちろん授業につかいたい本や資料など、館から借り上げ準備してくれる私的・公的な研究助手である。参考のためこれらの公的な助っ人には何がしかの恩典、学費免除などがある。はなしを戻そう。あつかましい利用法は彼らにお願いすることである。厳密にいえば、彼らの方から「お助けしましょうか」と声をかけてくれる、だから差し出された触手を引っ込める理由はない。おまけに、彼らは単に依頼者の指示通り本集めをするのが本務ではない。裏技、依頼者の意図をくんで「勝手に」といえば語弊があるが、必要な資料を自発的に探し出してデスクに準備してくれる巧みな裏技をもっている。一般に米国の研究者や学生の文献さがしのうまさ、こうした下積み時代の生きる技がものをいうのだということが分かり、なよりの土産話しとなった。

それに、あつかましく利用する第3のすべは図書館につめてある館員で学位(修士)をもった学位さんである。さすがはこの道の専門家だけあって話は早い。敏捷に対応してくれる。これがまた結構絵になる。とくにボクが関心したのは国や州のガバメントの書類や公文書など見事だ、何が何年のどの報告書に記載されているかなど実によく熟知している。それにおまけがつく、その後いつだれによって批判や反論があった条例が変更されたかまで熟知している。だから応ずればそれに的確に答えてくれる巧みなライブラリアンたちだ。そのかわりブリミアもつく。むろん金銭の類ではない。読んだ感想や意見を求められる。また、こんなところ遣い(ケア)を忘れない。「わたしのサービスが適切だったか?」と。多少返答するにはしんどかったが、今となれば心臓の亜義「あつかましい」利用法の1つの思い出となった。しかも彼のアドバイスやコメントが研究発表の際、居並ぶ教授どもから「エキセレント」、見事と訳すべきだろうがじつに心臓の亜義のなにかがくすぐられた感で妙だがうれしかった。

ただ、居わあせた隣人たちをみて最後まで「あつかましさ」が発揮できなかったことが1つ、2つある。1つは本の耳というか、上下、端に多少の余白があるが、ここをじつによく利用している。なかにはいまでは教授の椅子にすわっている先生がたも学生のころ使った本にメモが書き残されている発見だ。ご丁寧に仲間たちの反論や意見までが書き込まれている、いってみればめったに目にする事のない文化的、歴史的遺産を目撃できたが、このあつかましさは残念ながら見送ってしまった。その他、こんなものもあるいづこも同じと合点してしまったが、何年のテストにここから出題されたとか、この個所が学生と舌論となり、その年の「イヤーオブザ教授」に指名されたとか、おもしろい情報が随所にみられる。これもいたずら心が刺激され何度か試みてみようかとは思ったが、ついにこれも心不全(小心者)ゆえ果たせず仕舞に終わってしまった。それにもう1つが、いろいろな記号が本のなかに書き込まれている。ここは重要なところだと思つと、そのところに「imp」(インポートの頭文字)が、また赤いアンダーラインはいざ知らず「?」「や」「Q」、これはどうやら疑問の意味らしいのだが、やたら本への書き込みが目立つ。一種の学生文化とよんでいい。ついに、これへの機会も遠慮してしまった。



ただあつかましさの功罪のうち、デメリットもある。日本の大学では日常茶飯となっている文献採集術は鋭利な刃物で切ってもち帰るといふ逸脱行為(者)であろう。これがここではない。発覚すればその年の館の利用を差し止められるというものすごい制裁がくだるからだろうか。一度だけその場にあつかましく居合わせみる機会があったが、それは恐ろしい光景だった。公共物に対する教養人としてのマナーのあり方が要請され、教育的現場に「悪は悪」とする一本が通っている。余白があれば、心臓のイメージ(あたたかさ)についても最後に記しておきたい。まず本をさがし、かつ読む環境は、本というハード系に多少のいやし(癒し)の系が併設されている。なんの音もしない刺激遮断環境というより、むしろ積極的に音をとり入れた環境づくりに意欲をもやしている。もちろん利用者の反応は「グット」。その他リプリアの類だろうが鑄造、彫刻、絵画などを展示し、人・本・ただ広い空間に気持ちよさをコーディネートしている。もちろんみどり(植樹)をとりいれ疲れを癒す演出をしている。この国でという



心憎さが残る。それに欠かせないのが、ひと(館員)ひとり一人のサービスの質ではないだろうか。実に紳士な立ち居振舞い、利用者のニーズに応えるだけでなく、プラスアルファというのか、ボクは臆せず言わせてもらうのが心遣いなのだ。ハード面のケアとソフトへのケアを忘れていない。もちろん学生の代表をも参加させて考えていこうとする姿勢に他ならないのかも知れないが、

そして図書館カルチャーでの物語は、利用者と図書館との心のそれで、別な言い方をすればいい気分にしてくれるコミュニケーションの技だろう。これが外国からいったボクにはたまらなかつた。

こんな具合に。館員は「わたしのサービスが適切だった?」かと尋ねてくれる。それに重ねるように「ありがとう」と言葉が人の心を和にする。まさに音楽という和音である。もちろんこうした文化は一長一短にはつくれまい。やさしさを培う何ものかがここ(米国の教育環境)に涵養されてきている。まさに、知的探求の深まるどころにはこうした2人が不可欠であることを、あつかましい利用術から学ぶことができた。改めて海外研修の機会に感謝して筆をおく。

(やまぐち しんじ 応用社会学科 社会学部教授)

## 私の●●●●●●利用 図書館

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib>

### 開かれた 図書館

#### 韓

国では、最近、ソウル大学の図書館問題が話題になっている。その問題の発端は、学校側が、在学生以外に一定の使用料を払うべきだということを目指しながら、学校の規則を設定して、この秋学期からは卒業生を含んだ一般社会人に差等の料金をもらおうということにある。

それに反対して総学生会側は、国民の税金で設立された国立大学は市民社会に提供されるべきだし、大学の社会に対する役割は図書館などの学校の施設の自由な利用によって行われるべきだということを目指している。もちろん大学側でもその計画を正当化する理由はある。それは在学生の利用が、円滑に行われるため、とにかく在学生以外の利用を制限するしかないということである。その上、一般人の利用による勉強の雰囲気とか掃除の問題が発生して、経済的損を埋めなければならぬというのである。

#### 元 永 常

この論争をインターネットで見ながら学生としての私の頭の中に様々なことが浮かんできた。一番大きなことは、やはり図書館の役割ではなからうか。

敢えて言えば、人間の歴史は本の歴史だといえる。有名無名を問わず思想家或いは作家の考えが、人類の巨大な財産になって今図書館に眠っている。それをどの様に利用するかが、人類の未来を決定するし、大学はそれが行われる場所である。端的にいえば、基本的に大学はその思想を探る方法を又はその本を利用する方法を教える場所だと思われる。寝ているシンクタンクを復活させる主な中心地である図書館が一般向けに開かれていくことは十分予測できるだろう。いうまでもなく、図書館の役割に対する解答は決まったはずである。大学の財産であり、全社会の財産であるといえる。その当たり前の考え方が、なぜ今のような問題に直面するのだろうか。その根底には、資本主義的な考え方が横たわっていることを否定できない。それをどういうふうに関調させるのが、その問題を解決する鍵であろう。

それは、一大学の力だけでは、難しいだろう。電子社会の発展を見守りながら、成り立っていきたくない。言い換えれば資本主義の力は図書館の世界的な平等を実現するためにその役割を担うべきである。

今は情報社会であるし、その情報によるユートピアを夢見るインフォトピア(Infotopia、情報楽園社会)に向けていく道中である。そのために図書館の役割も変化しなければならない。一応社会が協力して、その情報を図書館に集めながら、その情報を自由に扱うような措置を取らなければならない。それには従来の本ばかり集める古典的な方法はもう通じないのである。世界全体の図書館あるいは、公開されている資料館とがインターネットで連結する方法をいち早く解決しなければならない。それは、



それは決してただの理想主義ではあるまい。インターネットに入ってみると、現実のものすごく早いスピードで流されている。様々な雑誌、新聞、図書などが販売され、そのネット上で読まれている。様々な個人情報も流れている。それを大学の図書館が整理して学生にどんな形で提供するかが目の前に立ちだかっている問題である。そのために、図書館はそれが属している社会と親密な関係を保ちながら、その社会の協力を得る必要がある。当然のこと、開

かれた図書館を構築していくべきである。私の留学は本校の新図書館と共に始まり、今では図書館は私にとって愛用の宝物になった。本学の象徴であるこの図書館がその確かな道をゆっくり歩いていくことに、私は時々安堵の息をつく。

(ウォン ヨサン 仏教文化専攻博士後期課程1回生)

# 私の図書館利用

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib>



書館を利用して不便であると思うことについて、書かせていただきましたと思います。

## 1. OPACについて

館内で図書を探す際、必ずといって良いほど、OPACを利用します。利用者にとってはアシスタント的存在で、使いこなせれば、素早く自分の関心にあった図書を探してくれるので便利です。しかし操作が難しく、慣れるまでに時間がかかります。OPACに向かい、悪戦苦闘している利用者の姿を毎日のように見かけます。検索に時間がとられ、図書を閲覧する時間が無くなってしまふこともあります。最近では、操作が簡単なOPACが開発され、他の図書館ではそれらの導入が進んでいると聞きます。本図書館でも改善して下さい。

## 2. インターネットの利用について

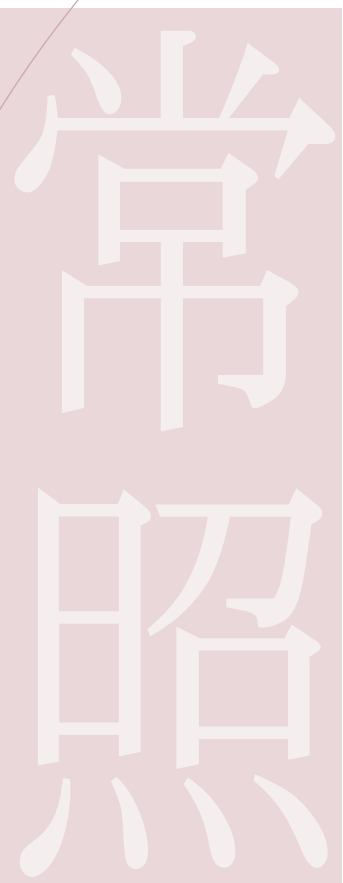
図書の検索にインターネットが必需品になりつつあります。文部省のNACSISをはじめ、各大学図書館がこぞってホームページを開設し、検索サービスを提供しています。たとえば、利用したい図書が本学の蔵書ではない場合、インターネットを利用し、その図書の収蔵先を探します。収蔵している図書

館がわかれば、簡単な手続きをすることによって、その図書を利用しに行くことができます。特に本学は、多くの大学に囲まれているという好立地にありますので、他の図書館の蔵書も利用しない手はありません。

しかし館内には、利用者がインターネットを直接利用できる設備がありません。館内でも利用ができれば便利だと思います。

## 3. 窓口の一本化

最近、あるテーマで研究するためOPACで資料を検索したところ、該当する図書と雑誌がありました。地下書庫に収蔵されてため、出納の手続きをしたのですが、図書と雑誌の出納をするカウンターが別々の階に設置されているため、余計な手間がかかります。



ます。窓口が統一されていれば便利です。

## 4. 洋書について

洋書を利用する機会が多いのですが、本図書館の場合、ほとんどの洋書が地下書庫に収められています。閲覧するためにはその都度手続きが必要で、不便であるだけでなく、閲覧する図書の数がおのずと限られてきてしまいます。開架閲覧室に洋書が配架されていれば、気兼ねなく利用できるのですが…。

## 5. 学科資料室について

ある図書を利用しようとOPACで検索したところ、ある学科の蔵書になっていました。そこで閲覧しに出掛けると、資料室が閉まっていたり、その図書が不明になっていたりします。体制が整っている学科もあるので一概には言えないのですが、図書館と各学科との連絡体制が整えられ、図書館に調整する権限が与えられていれば、資料の有効利用ができ、利用者にとっては便利で学習活動に貢献します。

図書館への苦言ばかりを一方向的に書きました。館内での携帯電話の使用、飲食、資料への落書き、施設の破壊活動等、図書館側も利用者に提言したいことが多くあると思います。一方向的に発言するので



はなく、お互いが意見を出し合い、考えることが図書館の利便の向上には不可欠であると思います。この「常照」が図書館と利用者との交流の場になることを期待しています。

(さくま しほ 文学研究科英米文学専攻修士課程2回生)

# 図書館に思うこと

佐久間 思帆

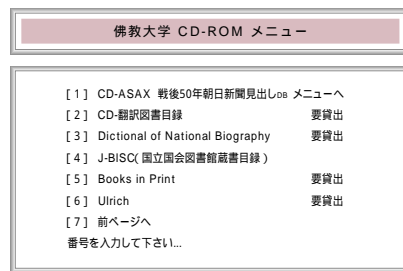
## CD-ROMによる 検索をされる方へ

CD-ROMによる検索用のパソコンは、4階の調査カウンターの前に8台、デスクトップパソコンとノートパソコンが4台ずつあります。また、デスクトップパソコンは2種類あり、全部で3種類の使用方法があります。

### デスクトップパソコンのメニュー画面(その1)



①

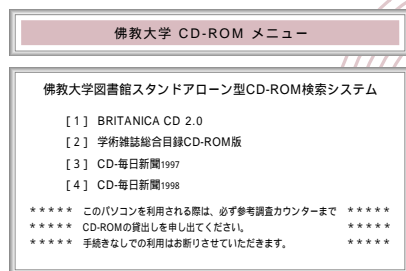


②

4台あるデスクトップパソコンの内、東側から3台は上のような画面になっており、これら12タイトルのデータベースソフトを検索することができます。右側に「要貸出」となっているソフトについては、調査カウンターにて CD-ROMの貸出手続をして下さい。

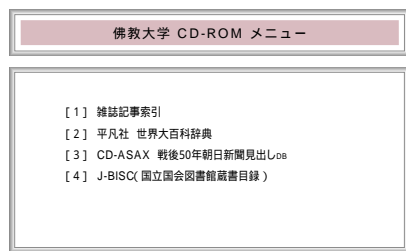
検索したいデータベースの左にある番号をキーボードから入力すると、それぞれのソフトが起動します。また、メニュー画面は2ページに分かれていて、画面が①または②の時は、「7」と入力する事によってページを切替えることができます。

### デスクトップパソコンのメニュー画面(その2)



デスクトップパソコンの一番西側の一台は、左の4タイトルでの利用が可能です。また、このパソコンはカウンターでCD-ROMの貸出を受けないと使用する事はできません。

### ノート型パソコンのメニュー画面



4台のノート型パソコンは、左の4タイトルでのデータベースを検索することができます。

CD-ROMを利用すると自分に必要な資料を任意のキーワードを使って検索する事ができます。

常照

#### 雑誌記事索引CD-ROM版

国立国会図書館所蔵の学術誌に掲載されている、雑誌論文の書誌情報が収録されています。雑誌論文のタイトル名や、著者名、雑誌名等のキーワードから検索できます。

これらのCD-ROMは、国立国会図書館の目録ですから、本文等の内容をパソコン上で読む事はできません。しかし、特定のテーマを扱った資料を検索する等、様々な用途に活用できます。

#### J-BISC

国立国会図書館に所蔵されている図書の書誌情報が収録されています。図書のタイトル名や、著者名、出版社等のキーワードから検索できます。

#### 世界大百科事典CD-ROM版

平凡社の百科事典です。約9万項目の見出し語と、本文中のキーワードから検索できます。

#### CD-ASAX戦後50年朝日新聞見出しデータベース

朝日新聞縮刷版の1945年から1994年に収録されている新聞の見出しを、分類、発行日等から検索できます。

#### CD-毎日新聞

毎日新聞の記事全文が収録されています。記事を見出しや本文中のキーワードや発行日等から検索できます。現在1997年版、1998年版が利用できます。

#### 新編国歌大観CD-ROM版

『新編国歌大観』に収録されている約45万首の和歌を、句、和歌中の語、詞書等にふくまれる語から検索できます。

#### CD-翻訳図書目録45/92芸術・文学編

1945年～1992年に国内で刊行された、約6万点の翻訳図書の書誌情報が収録されています。原書名や著者の原綴りを検索できます。

#### CD-ROM版大正新脩大蔵経

『大正新脩大蔵経』の本文が収録されています。任意の指定文字(列)によって検索できます。現在『大正新脩大蔵経』の八、九、二十五、三十巻が利用できます。

#### Books in Print on Disc

アメリカでの、既刊・新刊本約95万点の書籍の書誌情報を収録しています。

#### Dictionary of National Biography on CD-ROM

1985年までに没した著名人4万人の伝記情報を検索できます。

#### Ulrich's on Disc

全世界の定期刊行物、不定期刊行物・年鑑類約24万件の書誌情報を収録しています。

#### ERIC

“Resources in Education”と“Current Index to Journals in Education”に収録された教育学関係文献775誌の書誌情報を収録しています。

#### SOCIO-FILE

“Sociological Abstracts”から採録された書誌索引と抄録です。人間学、犯罪学、人口統計学、教育学、刑罰学、人種問題、都市研究等、社会科学関係の雑誌記事索引です。

#### BRITANNICA CD

『ブリタニカ百科事典(Encyclopedia Britannica)』のCD-ROM(英語版)です。

#### 学術雑誌総合目録CD-ROM版

『学術雑誌総合目録』の1996年版を収録しています。学術雑誌名をキーワードに検索し、書誌情報や所蔵している大学図書館・諸機関等を知る事ができます。

## 館外貸出(2階)

禁帯出以外の図書を出借手続きを行って、図書館から外に持ち出して利用することです。これは、学生、教職員など本学に在籍する方、また卒業生、浄土宗僧侶などで館長の許可を得た方が対象です。学生の方は学生証、教職員は身分証、それ以外の方はライブラリー・カードと、図書をもって2階貸出カウンターで手続きを行ってください。なお、貸出中の図書については、予約申込みもできます。

専任教職員	6ヶ月 30冊
大学院生・専攻科	1ヶ月 10冊
学部生	1ヶ月 5冊

(注)客員教授・客員研究員、研究員・研究生、科目履修生・特別科目履修生は、上記の所属に応じて貸出しができません。

## レファレンス・サービス(4階)

利用者の調査・研究のために情報提供などを行っています。詳しくは、4階調査カウンターへお越しください。

なお、メールでも受け付けを行います。

e-mail: bulib@bukkyo-u.ac.jp

## 他大学図書館の利用申込み(4階)

相手館の定める規則に基づいて利用することができます。

1. 京都、奈良、北陸のほとんどの私立大学図書館は、「私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会共通閲覧証協定」に参加しています。それらの図書館では、共通閲覧証と学生証(教職員証)を持っていけば、入館することができます。詳しくは、4階調査カウンターへお越しください。

2. その他の大学図書館は、図書館が発行する資料閲覧紹介状と学生証、教職員身分証明書をもって訪問してください。

## 学外機関からの文献の取り寄せ(4階)

国内外から文献複写を取り寄せることができます。その際、複写代はもちろんのこと、送料、手数料などの費用が発生します。これらはすべて申込み利用者の負担となります。

詳しくは、4階調査カウンターへお越しください。

## CD-ROMコーナーの利用(4階)

各種のCD-ROMが利用できます。検索結果のプリント・アウトは有料になります。

プリント・アウト 1枚 10円

ホーム・ページから、  
図書館が所蔵する図書・雑誌等を  
探すことができます。

## マイクロ資料閲覧室の利用(4階)

マイクロリーダー 3台、マイクロ資料 約100種を配置しています。

利用の申込みは、4階参考調査カウンターで行ってください。

プリント・アウト 1枚 20円

## 地図資料閲覧室(4階)

開室時間内は、自由に利用できます。不明な場合は、4階調査カウンターでお尋ねください。

## 対面朗読室(2階)

朗読者同伴で利用できます。

視覚障害者用音声読書システム1台を設置しています。その他に、拡大読書器を2台設置(2・3階)しています。

申込みは、2階貸出カウンターで行ってください。

点字図書 約150冊

# 図書館の 主なサービス および 施設・設備

URL [http:// www.bukkyo-u.ac.jp/lib](http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib)

## 新聞閲覧コーナー(1階)

最新の一般日刊紙6紙をはじめ、主だった中国語、韓国語、英語の最新の新聞を揃えています。なお、バックナンバーは4階出納カウンターでお尋ねください。

## 視聴覚コーナー(1階)

15台の視聴覚ブースが設置されています。本館所蔵のビデオ・ソフト、コンパクト・ディスクなどを視聴することができます。1階視聴覚カウンターでお尋ねください。

## 軽読書コーナー(1階)

最新の一般雑誌、情報誌約230タイトル、旅行ガイド205タイトルなどを揃えています。

## 研究個室の利用(2・3・4階)

大学院生、専攻科生、研究生、研究員の研究活動を行うための個室です。3時間単位で連続3日間利用できます。申込みは1週間まえより可能です。その他の貸出資格のある方は、当日に空室があれば3時間単位で利用できます。1階受付で手続きを行ってください。

## グループ閲覧室の利用(2・3階)

3名以上のゼミやサークルの単位で、館内の資料を活用して共同学習、研究活動を行うことができます。3時間単位で利用できます。申込みは1ヶ月前より可能です。1階受付で手続きを行ってください。

\*ただし、ミーティング等には、使用不可。

## エコボックス(1階)

図書館への意見や要望または購入図書がある場合、エコボックスの横にある所定の用紙に記入のうえ、投函してください。ただし、理由のないもの、無記名のもの、非建設的意見(中傷など)に対しては、回答いたしません。約10日間ぐらいで、1階にある館内掲示板にて回答いたします。

## 複写サービス(1階~4階)

1. 学術、研究、調査を目的とする。2. 出版された著作物の2分の1を超えない1部分であること。3. 新着雑誌でない、バックナンバーの一論文・記事であること。4. 一人につき1部であること。複数数のコピーはみとめられません。

上記の要件をみたした著作権法第31条の範囲内で所蔵資料のコピーができます。

1枚 10円

プリペイド・カード 1,000円(コピー105枚分)

常照



## 平成11年度 諸統計

### 受入・整理統計

課題となっていた中国書、洋書の整理は昨年度より軌道にのっている。

### 貸出統計

開館日・時間数については入学試験、台風などの外的要因により変動する。全体的にみて1昨年度との比較ではプラスであるが、前年度との比較では全体的に減少している。1日あたり入館者数は2062人で0.7%、貸出冊数は2.3%、雑誌出納件数は11.8%、相互協力依頼件数は2.1%、レファレンス件数は19.4%それぞれ減少した。

逆に、視聴覚資料の閲覧は3.3%、相互協力受付件数は4.1%、施設利用として研究個室は8.5%、グループ閲覧室は30.4%のプラスとなった。

### 主題別貸出冊数

主題別	通 学				通 信				研究員・研究生		教職員		その他		総 計	
	和 書	洋 書	和 書	洋 書	和 書	洋 書	和 書	洋 書	和 書	洋 書	和 書	洋 書	和 書	洋 書	和 書	洋 書
0類 総 記	154	0	33	1	88	0	-	-	0	0	59	0	80	2	414	3
1類 哲 学	7,813	7	2,258	52	3,546	5	-	-	65	24	661	13	941	36	15,284	137
(14)心理学	(1,157)	(0)	(154)	(0)	(423)	(2)	-	-	(3)	(0)	(29)	(0)	(66)	(3)	(1,832)	(5)
(18)仏教	(3,825)	(6)	(1,592)	(37)	(1,848)	(2)	-	-	(56)	(23)	(396)	(11)	(594)	(19)	(8,311)	(98)
2類 歴 史	6,863	2	967	5	1,546	0	-	-	26	4	425	4	528	38	10,355	53
(21)日本史	(3,890)	(1)	(602)	(0)	(836)	(0)	-	-	(10)	(0)	(239)	(0)	(243)	(0)	(5,820)	(1)
(22)東洋史	(1,086)	(0)	(158)	(2)	(317)	(0)	-	-	(2)	(4)	(52)	(0)	(53)	(33)	(1,668)	(39)
3類 社会科学	15,676	6	1,512	12	9,248	0	-	-	77	1	485	36	912	124	27,910	179
(36)社会学	(6,836)	(3)	(758)	(5)	(4,840)	(0)	-	-	(60)	(0)	(169)	(24)	(334)	(22)	(12,997)	(54)
(37)教育	(4,790)	(1)	(219)	(3)	(2,979)	(0)	-	-	(5)	(0)	(129)	(5)	(221)	(2)	(8,343)	(11)
4類 自然科学	1,377	0	71	0	903	0	-	-	22	0	35	1	69	0	2,477	1
5類 技 術	906	0	36	0	153	0	-	-	1	0	7	0	47	0	1,150	0
6類 産 業	672	0	62	0	141	0	-	-	2	0	17	1	54	1	948	2
7類 芸 術	2,059	1	233	0	470	0	-	-	7	0	132	5	148	2	3,049	8
8類 言 語	4,112	0	441	17	1,599	5	-	-	35	0	245	3	453	14	6,885	39
(81)日本語	(287)	(0)	(47)	(0)	(190)	(2)	-	-	(10)	(0)	(41)	(0)	(63)	(0)	(638)	(2)
(82)中国語	(134)	(0)	(33)	(12)	(42)	(0)	-	-	(5)	(0)	(18)	(0)	(51)	(4)	(283)	(16)
(83)英語	(94)	(0)	(48)	(1)	(348)	(1)	-	-	(11)	(0)	(4)	(0)	(37)	(5)	(542)	(7)
9類 文 学	5,450	13	897	77	2,161	38	-	-	25	0	261	17	419	58	9,213	203
(91)日本文学	(3,529)	(0)	(609)	(0)	(1,083)	(0)	-	-	(14)	(0)	(196)	(0)	(178)	(0)	(5,672)	(0)
(92)中国文学	(756)	(0)	(62)	(1)	(248)	(0)	-	-	(3)	(0)	(21)	(0)	(109)	(1)	(1,199)	(2)
(93)漢米文学	(639)	(12)	(192)	(71)	(613)	(36)	-	-	(1)	(0)	(18)	(17)	(74)	(36)	(1,537)	(172)
計	45,082	29	6,510	164	19,855	48	-	-	260	29	2,327	80	3,651	275	77,685	625
中国書	67		171		22		-	-	7		62		145		474	
国 書	13		32		3		-	-	0		7		0		55	
佛 書	1		0		0		-	-	0		1		0		2	
宗 書	1		21		0		-	-	0		19		2		43	
文 庫	2		35		0		-	-	0		74		1		112	
マイク	6		2		1		-	-	0		6		18		33	
総 計	45,201		6,935		19,929		-	-	296		2,576		4,092		79,029	

(注)その他は、通信大学院・卒業生等を含む。

### 主題別整理冊数(単行本)

主題別	和 書	中国書	洋 書	計
0類 総 記	1,000	369	29	1,425
1類 哲 学	1,913	842	538	3,293
(14)心理学	(722)	(3)	(236)	(961)
(18)仏教	(661)	(692)	(183)	(1,536)
2類 歴 史	1,386	797	95	2,278
(21)日本史	(833)	(0)	(6)	(839)
(22)東洋史	(150)	(692)	(7)	(849)
3類 社会科学	5,071	302	570	5,943
(36)社会学	(2,282)	(6)	(405)	(2,693)
(369)社会福祉	(1,359)	(0)	(184)	(1,543)
(37)教育	(1,329)	(21)	(67)	(1,417)
4類 自然科学	992	14	189	1,195
(49)医学	(778)	(1)	(180)	(959)
5類 技 術	284	20	7	311
6類 産 業	170	19	10	199
7類 芸 術	541	117	34	692
8類 言 語	252	92	10	354
(81)日本語	(99)	(0)	(1)	(100)
(82)中国語	(73)	(92)	(10)	(175)
(83)英語	(27)	(0)	(17)	(44)
9類 文 学	1,173	573	359	2,105
(91)日本文学	(855)	(3)	(3)	(861)
(92)中国文学	(90)	(569)	(1)	(660)
(93)漢米文学	(110)	(0)	(296)	(406)
総 計	12,782	3,172	1,918	17,795

### 蔵書数

蔵書数	日本語	外国語	計
	574,746	134,212	708,958
雑誌種数	日本語	外国語	計
	5,566種	1,920種	7,486種

### 資料区分別受入冊数

資料区分	和 書	中国書	洋 書	計	
図書(単行本)	15,570	3,611	2,477	21,658	
逐次刊行物	5,324	219	782	6,325	
マイクロ資料・その他	マイクロ資料	233	0	233	
	地図資料	58	0	58	
	点字資料	0	0	0	
	録音資料	173	0	173	
	映像資料	418	2	420	
	静止画像	6	0	6	
	機械可読ファイル	46	0	46	
	複製資料	52	0	53	
	小 計	934	2	0	936
	合 計	21,880	3,832	3,260	28,972

### 研修会参加、私立大学図書館協会関係役員会出席一覧

会議名・研修会名	実施月日	開催場所
私立大学図書館協会第1回常任幹事会	4月13日	明治大学
私立大学図書館協会ホームページ委員会	4月19日	明治大学
私立大学図書館協会西地区部会会計監査	4月20日	京都産業大学
私立大学図書館協会京都地区運営会議	5月26日	立命館大学
私立大学図書館協会京都地区協議会相互協力連絡会	5月26日	立命館大学
私立大学図書館協会春季京都地区協議会(第116回)	5月26日	立命館大学
第69回近畿地区国公立大学図書館協議会総会	6月 8日	滋賀大学(いこいの村いわ湖)
私立大学図書館協会西地区部会第1回役員会	6月15日	福岡ガーデンパレス
私立大学図書館協会西地区部会総会	6月16日	西南学院大学
私立大学図書館協会臨時常任幹事会	7月 5日	明治大学
第48回公私私立大学図書館協力委員会	7月 7日	佛教大学
私立大学図書館協会第1回東西合同役員会	8月 1日	専修大学
私立大学図書館協会第61回総会・研究大会・見学研修	9月2日-3日	専修大学
私立大学図書館協会京都地区運営委員会	9月 5日	佛教大学
私立大学図書館協会雑誌価格についての懇談会	9月20日	明治大学
近畿国公立大学図書館協会講演会	9月25日	京都大学
私立大学図書館協会阪神地区協議会研究会	9月26日	神戸親和女子大学

常照

## サイト紹介

国立国会図書館ホームページ  
<http://www.ndl.go.jp/>

### 電子図書館 <http://www.ndl.go.jp/ndlfrm1.html>

電子図書館は、2000年3月22日の国立国会図書館ホームページの改訂にあわせて開設されました。次に紹介されるようなコンテンツがあります。検索は無料です。



電子図書館トップページ

<http://www.ndl.go.jp/ndlfrm1.html>

### 書誌情報( web-OPAC )の検索

国立国会図書館所蔵資料のうち、昭和23年以降に受入れた国内刊行図書(約200万件)及び昭和61年以降に受入れた洋図書(約20万件)の書誌情報を検索することができます。

国内のインターネット上のOPAC(Online Public Access Catalog)で最大級の件数を持っています。



書誌情報( web-OPAC )トップページ

<http://webopac2.ndl.go.jp/>

### 国会会議録

第126回国会(1993年1月)以降の会議録情報を検索することができます。

### 貴重書画像データベース

国立国会図書館が所蔵する主として江戸期に発行された彩色資料(約23,000枚)の画像データを検索、閲覧することができます。

### 図書館情報学関係雑誌記事情報

図書館情報学に関する雑誌(約128誌)の記事情報の一覧です。1ヶ月毎に更新します。

### 雑誌記事索引採録誌一覧

1984年1月受け入れ以降『雑誌記事索引』に採録されている雑誌の一覧です(現在約9,000誌)。1ヶ月毎に更新します。

### 全国の点字図書・録音図書製作速報

全国の点字図書・録音図書の速報を掲載しています。1ヶ月毎に更新します。



貴重書トップページ

<http://www3.ndl.go.jp/rm/index.html>

ここでは毎回図書検索に役立つホームページを紹介していきます。

## 開館時間表

2000年度(秋学期)

10月	
1日	閉館
2月	9:00~20:00
3火	
4水	
5木	
6金	
7土	
8日	
9祝	法定電気点検のため閉館
10火	9:00~20:00
11水	
12木	
13金	
14土	
15日	
16月	
17火	
18水	
19木	
20金	
21土	9:00~17:00
22日	創立記念日のため閉館
23月	9:00~20:00
24火	
25水	
26木	
27金	
28土	
29日	
30月	9:00~20:00
31火	月例休館日

11月	
1水	9:00~20:00
2木	9:00~17:00
3祝	閉館
4土	9:00~17:00
5日	9:00~20:00
6月	9:00~17:00
7火	
8水	
9木	
10金	
11土	
12日	
13月	
14火	
15水	
16木	
17金	9:00~20:00
18土	
19日	
20月	
21火	9:00~20:00
22水	
23祝	
24金	
25土	
26日	
27月	
28火	
29水	月例休館日
30木	月例休館日
31日	月例休館日

12月	
1金	推薦入試のため休館
2土	
3日	
4月	9:00~20:00
5火	
6水	
7木	
8金	
9土	
10日	
11月	
12火	
13水	
14木	
15金	
16土	
17日	
18月	
19火	館内整理のため休館
20水	
21木	
22金	年末休暇のため閉館
23祝	
24日	
25月	
26火	
27水	
28木	
29金	
30土	
31日	

1月	
1祝	年始休暇のため閉館
2火	
3水	
4木	
5金	
6土	11:00~20:00
7日	9:00~20:00
8祝	
9火	
10水	
11木	
12金	
13土	
14日	
15月	
16火	
17水	
18木	9:00~20:00
19金	
20土	
21日	
22月	
23火	9:00~17:00
24水	
25木	
26金	
27土	
28日	
29月	
30火	
31水	月例休館日

2月	
1木	一般入試A日程のため休館
2金	
3土	
4日	
5月	9:00~20:00
6火	9:00~17:00
7水	
8木	
9金	
10土	
11祝	
12振	
13火	9:00~17:00
14水	
15木	
16金	
17土	
18日	閉館
19月	9:00~17:00
20火	
21水	
22木	
23金	
24土	
25日	
26月	
27火	9:00~17:00
28水	
29木	
30金	
31土	月例休館日

3月	
1木	9:00~17:00
2金	月例休館日
3土	
4日	
5月	一般入試B日程のため休館
6火	
7水	
8木	
9金	9:00~17:00
10土	
11祝	
12月	
13火	
14水	9:00~17:00
15木	
16金	
17土	
18日	9:00~20:00
19月	館内整理のため休館
20火	
21水	
22木	閉館
23金	
24土	
25日	
26月	9:00~17:00
27火	
28水	
29木	
30金	
31土	
館内整理のため休館	

変更される場合がありますのでご注意ください。